

# 中央図書館休館のお知らせ

休館期間：6月24日(土)～6月30日(金)

中央図書館は、特別整理期間のため休館します。これは、図書館の本やCDなどすべての所在を確認する作業のために必要な休館です。

※葦山図書館は通常どおり開館します。



期間中、ご不便をおかけしますがご了承ください。

中央図書館 ☎ 0558-76-5566

# 有機農法による 野菜づくり講習会



ご家庭で手軽に安全でおいしい野菜づくりを始めませんか。どちらか1回のみ参加も可能です。

【第1回】 ※雨天決行  
 とき／7月15日(土) 10:00～12:00  
 ところ／大仁農場 (希望者は大仁庁舎から送迎可)  
 内容／プランターでの栽培講習 (土づくり、種まき)  
 定員／20人 (先着順)  
 持ち物／軍手、帽子

【第2回】  
 とき／8月25日(金) 19:00～20:30  
 ところ／あやめ会館 多目的ホール  
 内容／秋野菜のつくり方講習 (座学)  
 定員／50人 (先着順)  
 市役所農業商工課 ☎ 0558-76-8003

## 図書館だより

今月のおすすめ ～男女共同参画～

男女共同参画週間(6月23日～29日)を前に、中央図書館で本を展示しています。あなたに身近な話題は？



『主夫のトモロー』  
朱川湊人 (著)

働く妻を支え、家事と育児をこなしながら作家を志す齊藤知朗に、「主夫」に対する社会の壁が立ち上がる。著者自身の主夫体験をもとに、家族のかたちを描く家族小説。【葦山】



『物語ること、生きること』  
上橋菜穂子 (著)  
瀧晴巳 (構成・文)

『獣の奏者』『守り人』シリーズの著者が語る作家になるまでの道程。強さへの憧れ、さまざまな本との出会い、研究者としての異文化体験。経験が物語を育む。【中央】

### 何冊借りる？

図書館の利用者カードを持っている人は、一度に本10冊まで、雑誌のバックナンバー3冊まで、DVD・CDなどの視聴覚資料3点まで、合計16点まで借りることができます。これは、中央図書館、葦山図書館で借りる合計点数です。



図書館カレンダー  
モバイル版QRコード

### 6月のおはなし会

※いずれも土曜日

中央図書館  
10日 11:00～

葦山図書館  
10日、24日 14:00～

あやめ会館  
17日 10:30～

■『ノンママという生き方—子のない女はダメですか?』香山リカ(著)【葦山】

■『女性ホルモンの教科書』黒住紗織ほか(著)【中央】

■『両親の送り方—死にゆく親とどうつきあうか』宮子あずさ(著)【葦山】

■『なぜ妻は突然、離婚を切り出すのか』打越さく良(著)【中央】

■『「居場所」のない男、「時間」がない女』水無田気流(著)【葦山】

■『パワハラにあったときどうすればいいかわかる本』磯村大ほか(著)【中央】

6月の休館日  
 中央図書館 5日(月)、12日(月)、19日(月)、24日(土)～30日(金)  
 葦山図書館 7日(水)、14日(水)、21日(水)、28日(水)、30日(金)

開館時間(共通) 9:00～17:30  
 中央図書館 ☎ 0558-76-5566  
 図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/>

## 文化財通信

その144

### 葦山反射炉の築造担当者「八田矢助」(その3)

市役所文化財課  
☎ 055-948-1428



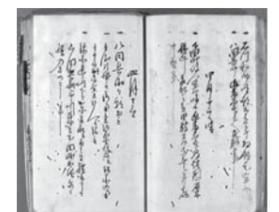
反射炉御取建中日記  
安政元年4月10日条  
(公財) 江川文庫所蔵

兵助ら反射炉御懸の多岐にわたって築造した。築造

安政元年(1854)4月5日に下田を發ち、田方郡中村(現伊豆の国市中)の反射炉築造予定地に向かった八田兵助は、現地の見分を終え、4月10日には下田に戻りました。幕府からは、築造場所を中村に移転せよと命じる御用状が既に届いており、兵助は他の同役とともに、移転に向けた作業に取りかかります。

前号(広報)のくくりに5月号・文化財通信その143で紹介したとおり、本郷(現下田市)で築造中だった反射炉が移転することとなったのは、3月27日にペリー艦隊の水兵が築造現場に侵入する事件があったからです。とはいえ、元々移転先について検討していなければ、事件発生から移転まで、これほどの短期間で決定を見ることはなかったでしょう。プロジェクトを指揮していた江川坦庵公が、こうした事態も想定して、あらかじめ移転候補地を定めていたと考えるのが妥当かもしれません。

さて、一口に移転と言っても簡単なことではなく、兵助ら反射炉御懸の多岐にわたって築造した。築造



反射炉御取建中日記  
安政元年4月13日条  
(公財) 江川文庫所蔵

中村に運ばなければなりません。本郷から川船で下田港に運び、さらに大きな船に積み替えて三津(現沼津市)や沼津港に廻送。そのため人手や船の手配はもちろん、現地に残った資材の入札での払い下げ、既に発注していた工事の中止や作業終了分の精算、といった仕事もありました。江戸湾の品川沖では、坦庵公が手掛けるもう一つの大きなプロジェクト、品川台場の築造が進められており、反射炉の完成も急がれている中での対応でした。

そうした状況下、反射炉御懸の面々は急ピッチで作業を進め、4月17日には本郷の現場を撤収し、詰所を引き払うところまで漕ぎ着けています。兵助は、それに先立つ4月13日に下田を出発、中村での着工準備のため、中村に向かいました。こうして、いよいよ葦山反射炉の築造がスタートすることとなります。

中の反射炉や小屋を解体し、石材や煉瓦など移転先でも使える資材については、